











標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図		原付置試験 ( 孔内水圧感応 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
															N 値	値																
		21		花崗斑岩	明礬灰	IVg	Hsg	γ		2	<p>20.60m: 傾斜70° の割れ目沿いに風化して褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目沿いはマンガン基染で黒褐色化する。</p> <p>21.00~21.66m: 割れ目は少ないが、一部で傾斜60° 前後の低密着割れ目を認め、打撃で分離しやすい。</p> <p>21.18m - 35°, 21.44m - 50° で径1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。</p> <p>21.50m: 傾斜60° の割れ目は、21.44m - 50° の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩体には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>21.66~26.78m: 傾斜30~50° の割れ目が主体で、割れ目沿いに細く砂状化したり、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。</p> <p>22.36~22.40m: 径1mmの大型の長石斑晶が散見される。</p> <p>22.72m・45° ~22.78m・50° の間は、風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。</p> <p>23.27m: 傾斜50° で多少湾曲した割れ目に径1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。</p> <p>23.40~23.77m: 傾斜60~70° の低密着割れ目が多数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。</p> <p>23.76~24.00m: 傾斜70~90° の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。</p> <p>24.15~24.40m: 径10~20mmの大型の石英、方り長石、長石の斑晶が多い。</p> <p>24.59m, 25.09m, 25.61m: 傾斜40~45° の割れ目沿いに幅10~20mmが、緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。</p>																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																N	値												
				花崗斑岩			Dg	Ng																					
				明礬灰			Eg	Vg																					
				花崗斑岩			Vg	cg																					
				花崗斑岩			Eg																						
				明礬灰				Vg	cg																				
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬灰																									
				明礬																									



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原付置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																										
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値																																					
		36	花崗斑岩	花崗斑岩	灰褐色	Bg	Wg	bg		γ	35.40m: 傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し、径20~30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土層は伴わない。	0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50																																						
		37									褐色																			Cg	Vg	cg	γ	35.90m: 傾斜60°の底密着割れ目の一部に幅0.5mmの粒状な白色粘土が付着するが、連続性はない。	0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50															
		38																																褐色																			Wg
		39									褐色																			Wg	cg	γ	36.37m: 傾斜45°の割れ目は交差する傾斜15~30°の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50															
		39	褐色	Wg	cg	γ	36.68m: 傾斜55°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。36.80~37.00m: 傾斜75~80°の高角度割れ目に幅2~4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。	0 50 100	GM'			0 10 20 30 40 50																																									
		39					褐色				Wg																			cg	γ	37.15~39.41m: 上位に北へ割れ目が多く、傾斜40~50°が主体で、これに斜交~直交する60~80°の割れ目も分布する。37.15~37.69m間では粘土化部や粘土層の挟入は殆どないが、割れ目沿いに薄く砂状化するものもある。37.68~38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟入物はない。38.95~39.41m間では割れ目が消滅することが多い。	0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50																	
		39	褐色	Wg	cg	γ		37.15~37.69m: マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐色色を呈する。	0 50 100	GM'			0 10 20 30 40 50																																								
		39					褐色	Wg			cg																			γ	38.12~38.20m: 割れ目沿いに褐色化するが、岩片は劣化していない。		0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50																	
		39	褐色	Wg	cg	γ			38.95~39.41m: 風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34~39.41mの区間は、傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にぶい橙色の軟質な粘土層が多く分布する。	0 50 100		GM'		0 10 20 30 40 50																																							
		39					褐色	Wg	cg		γ																			39.41~40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。			0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50																	
		39	褐色	Wg	cg	γ				39.50m: 傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。		0 50 100	GM'		0 10 20 30 40 50																																						









標尺 (m)	高度 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧感應)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															(N値~深度) 図	(N) 値											
56			花崗斑岩	灰褐色	Dg						55.07m: 傾斜55°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。		CL'														
											55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。																
											55.41m: 傾斜55°の割れ目で、上端側の20°の割れ目、下端側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																
											55.80m: 傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0.5~1mmの不連続な方解石脈を挟む。																
											56.18m・50° ~ 56.23m・50°の割れ目に囲まれてやや軟質化する。																
57											56.54~56.57m: 変質部 上端60°で直線的にシャープであるが、深部側延長部で70~80°で大きく湾曲、下端60°で1箇所で屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質球状部で全体の色調は灰白~明褐色で斑様を呈する。幅10~15mmで、深部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。																
											56.57~57.63m: 傾斜50~60°とこれと斜交~直交する20~60°の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。																
											57.63~57.75m: 傾斜50~60°の割れ目。低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟質化する。																
											57.75~58.37m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90°の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。																
											58.37~58.85m: 傾斜20~30°の割れ目と80~90°の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。																
59			58.85~58.96m: 傾斜50°の割れ目が主体である。																								
			58.85m: 傾斜50°の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明褐色の軟質粘土からなる粘土泥じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																								
			58.96~59.47m: 傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。																								
			59.16m: 傾斜45°の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。																								
			59.47~60.06m: 傾斜30~50°の割れ目。低密着割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。細目状に石英脈を挟む。																								



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度)		室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														標準貫入	試験															
61				花崗斑岩	明礬灰	緑灰	Cg	Vg	cg	<p>●60.06~60.39m: 破砕部 60.06m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質一部やや硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。</p> <p>60.06~60.16m: 粘土質硬状部 (Hc) 上端45°で直線的にシャープに連続、下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約20~50mm。</p> <p>60.16~60.39m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土孔に硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と岩片間に線状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなる。明礬灰~暗緑灰色を呈する。</p> <p>60.39~60.74m: 割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50~60°の石英、方解石の白色結晶脈が径2~5mmで分布する。</p> <p>60.74~60.96m: 径5~20mmの硬さ「D」の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。</p> <p>60.96~61.39m: 低密着割れ目沿いに土径10~20mmの細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。</p> <p>61.25~61.29m: 傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の石英脈を伴う。</p> <p>61.39~61.47m: 変質帯 上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さ「D」の岩片と粘土化した基質からなる。</p>	0	50	CL'																	
							Eg	Vg	dg		3																			
							Dg	Vg	cg		3																			
							Eg	Vg	dg		2																			
							Cg	Vg	cg		3																			
							Eg	Vg	dg		4																			
							Dg	Vg	cg		3																			
							Vg	dg	7																					
							Eg	Vg	cg		3																			
62								花崗斑岩	明礬灰		緑灰	Dg	Vg	cg	<p>●61.47~61.52m: 破砕部 61.47~61.52m: 粘土質硬状部 (Hc) 上端5°で傾斜45°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。</p> <p>61.52m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟質な暗緑灰色粘土からなる。</p> <p>61.52~62.42m: 傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は深く砂状化したり、径1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土を挟むことが多い。</p> <p>62.39m: 傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟み物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>62.42~62.49m: 上端25°、下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。</p> <p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.74m: 傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下層幅3~12mmに径5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかると、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の炭酸灰~白色粘土が付着することが多い。</p>	0	50	D'												
			Eg	Vg	dg	3																								
			Dg	Vg	cg	3																								
			Eg	Vg	dg	3																								
			Dg	Vg	cg	3																								
			Eg	Vg	dg	3																								
			Dg	Vg	cg	3																								
			Eg	Vg	dg	3																								
			Dg	Vg	cg	3																								
			Eg	Vg	dg	3																								
63				花崗斑岩	明礬灰	緑灰	Dg	Vg	cg	<p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.74m: 傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下層幅3~12mmに径5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかると、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の炭酸灰~白色粘土が付着することが多い。</p>	0	50	D'																	
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
64				花崗斑岩	明礬灰	緑灰	Bg	Vg	bg	<p>62.49~62.74m: 変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰白色の粘土脈を挟む。</p> <p>62.74m: 傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟み、その下層幅3~12mmに径5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土脈を伴う。</p> <p>62.74~63.29m: 割れ目は消滅しかかると、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まないが、岩片間にフィルム状の炭酸灰~白色粘土が付着することが多い。</p>	0	50	CM'																	
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					
			Dg				Vg	cg	3																					
			Eg				Vg	dg	3																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧感 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															N 値	深度																							
		61		灰褐	Cg	Vg	cg		3																														
					Eg	Vg	dg																																
					Dg	Vg	cg																																
					Eg	Vg	dg																																
				明褐灰	Cg	Vg	cg		2																														
					Eg	Vg	dg																																
					Dg	Vg	cg																																
					Eg	Vg	dg																																
		62			花崗斑岩	Dg	Vg	cg		3																													
						Eg	Vg	dg																															
						Dg	Vg	cg																															
						Eg	Vg	dg																															
			緑灰		Vg	dg		7																															
					Eg	Vg	cg																																
					Dg	Vg	cg																																
					Eg	Vg	dg																																
		63			灰褐	Dg	Vg	cg		3		63.03~63.04m: 傾斜40°で幅0mmの灰色の石英脈を挟む。 63.21m: 傾斜45°で幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。 63.29~63.67m: 上位より著しく軟質化し、径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 63.49m: 傾斜55°の割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●63.67~63.90m: 破砕部 63.67~63.83m: 粘土混じり岩片状部 (出) 上端45°, 下端60°でともに一部不明瞭で連続。径5~20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。また、63.72mに傾斜45°で幅2~3mmの軟質な赤灰色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。 63.83~63.88m: 粘土質塊状部 (出) 上端60°で不明瞭、下端0°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの一部粘土化。一部径さ「E」の岩片を多く含む。基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状~レンズ状に含む。軟質。灰白~赤灰色を呈する。幅20~30mm。 63.88~63.90m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。 63.90~64.05m: 径さ「D」の径5~20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟質化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目で下位と境される。 64.05~64.57m: 一部に径さ「C」を言いが、径さ「D」の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部で径10~20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟在物は分布しない。 64.57~65.06m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も分布する。 64.83m: 傾斜60°で幅1mmの硬質な炭灰色粘土脈を挟む。																											
						Eg	Vg	dg																															
						Dg	Vg	cg																															
						Eg	Vg	dg																															
				灰褐	Bg	Vg	bg		2																														
					Eg	Vg	dg																																
					Dg	Vg	cg																																
					Eg	Vg	dg																																



孔番 H24-D1-4 孔

深度 0.00m ~18.00m

孔口標高 6.95m







孔番 H24-D1-4 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 6.95m

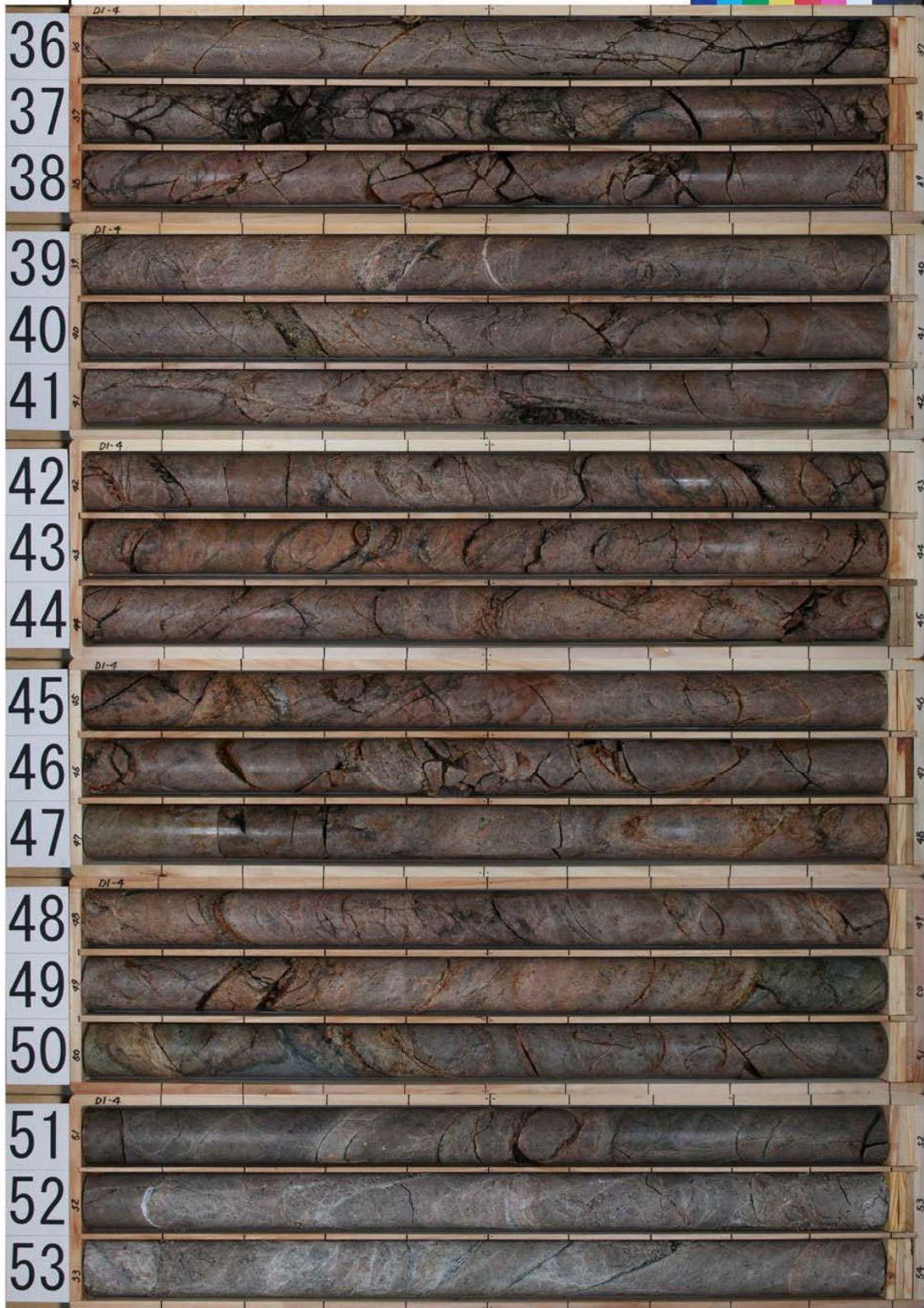




孔番 H24-D1-4 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 6.95m





孔番 H24-D1-4 孔

深度 54.00m ~ 70.00m

孔口標高 6.95m



余白



H27-B-3

余白



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
														N 値	図													
		6		盛土	にぎい書裾					5.27~10.05m: 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~亜角礫を含む粗粒砂からなる。																		
	6.50m以深は締まりが良い。																											
	7	8.01~8.37m: 砂を挟む。																										
	8	9.21~9.66m: 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗岩細骨材少量含む)。																										
	9	9.80m付近にモルタルを含む。																										
					オリーフ灰	灰黄褐																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原付置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N値)	(深度)																	
		-0.06 ~ 10.05	※	灰巻層										0	50	100																
11			花崗斑岩	明礬灰		Dg	cg	δ	2		10.05~180.00m: 花崗斑岩 径1~3mmの石英、長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが多い。 10.05~12.96m: CL 硬さ「G」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んで硬さ「D」である。 硬さ「G」の区間の一部で割れ目に挟石物を含まない部分があるが、多くは風化により砂や粘着粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。 10.70~10.00m: 硬さ「G」の硬質岩片が残留する。	4 100																				
											Cg	bg	γ		11.20~11.82m: 硬さ「G」主体で挟石物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含む。 11.40~11.55m: 割れ目が交差し岩片化するが、変化は伴わない。	7 100	CL'															
12											Dg		δ	3	11.82~12.00m: 下下位よりも軟質化する。11.97~12.00mは粘土化が進む。 12.00~12.96m: 硬さ「G」主体であるが、割れ目沿いに幅1mm程度で深く砂状化することが多い。また、各割れ目は強くマンガン染染を受け、血の一部は黒褐色化する。	9 100																
13											Cg	Vg	γ	2	12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目は残留しているが、全体に硬質な砂状化が進み、所々、灰白色の粘土を径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含む。	8 100																
14			Cg		δ	2	13.64~14.30m: 硬さ「G」の岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布する。	6 100																								
			Eg			3	14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘土を挟む割れ目は、交差する60°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。 14.30~14.62m: 上端「γ」で幅1~5mmの軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下位50°の割れ目で囲まれ詳しく軟質化しているが、一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。	8 100																								
			Dg			2	14.62~20.04m: CL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目沿いに風化で塊状化が拡大する部分も含む。16.49m以深は硬さ「G」主体である。	6 100																								



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																											
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値																																						
		21	花崗斑岩	明礬灰	Rg	IVg	bg	γ			20.04~20.93m: GM 部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は粒径、長さの一部は白濁化するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。																																											
		22									Dg																		IVg	og	δ	20.93~26.70m: GL 前後の割れ目が主体。一部で70~90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.60m以降は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以降は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 21.14~21.24m: 上端45°、下端49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン染色が見られる。 21.55~21.65m: 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂状状を呈する。 21.70~22.40m: 高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン染色や幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03~22.63m: 70~90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.50~22.64m: 上端60°で幅2~3mmの褐色粘土脈。下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が扇方向に分布し、これらに直交~60°斜交する60~80°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の粗粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩質に劣化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.92m: 80~90°の高角度割れ目はマンガン染色を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 60~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン染色で黒褐色砂を挟む。																						
		23									Cg																		IVg	bg	γ																							
		24									Dg																		IVg	og	δ																							